



第六回「平塚らいてう賞」 贈賞式のご案内

日本女子大学では、2010（平成22）年12月10日に第六回「平塚らいてう賞」の受賞者を発表いたしました。

つきましては、第六回「平塚らいてう賞」贈賞式を下記のとおり開催しますので、ご案内申し上げます。

—記—

【日 時】2011年2月12日(土)14:00～16:10（13:30より受付）

【場 所】日本女子大学 新泉山館 大会議室(目白キャンパス)

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

・JR山手線目白駅下車徒歩15分（目白駅前よりバス5分）・東京メトロ有楽町線護国寺駅下車徒歩約10分

・東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅下車徒歩約8分

【贈賞式 式次第】

- 開会挨拶 選考委員長/日本女子大学学長 蟻川 芳子
- 講話 選考委員/平塚らいてうの記録映画を上映する会会長、日本女子大学名誉教授 中嶋 邦 氏
- 前年度の受賞者による講演 前年度顕彰 日本文藝家協会員、現代歌人協会員 松村 由利子 氏
- 前年度の奨励受賞者による成果発表 前年度奨励 龍谷大学国際文化学科 非常勤講師 芝原 妙子 氏
～ 休憩 ～（ティータイム）
- 今年度総評 選考委員/WILPF(婦人国際平和自由連盟)日本支部副会長、日本女子大学名誉教授 出淵 敬子 氏
- 第六回受賞者 賞状・副賞贈呈 顕彰1件 奨励1件 特別1件
- 受賞者紹介 スピーチ
- ご挨拶 選考委員/映画監督 羽田 澄子 氏

【定 員】 100名

【お申込み方法】 お名前・ご住所・ご所属・電話番号を明記の上、メール または ファクスにて、下記の事務局へ1月31日(月)までにお知らせください。なお、お電話でも承ります。

ホームページ: <http://www.jwu.ac.jp/st/grp/raiteu/>

以上

【この件に関する問い合わせ先(事務局)】

学校法人 日本女子大学 総務部広報渉外課 「平塚らいてう賞」事務局

Tel:03-5981-3176 Fax:03-5981-3164 メール:raiteu@atlas.jwu.ac.jp



第六回「平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第六回受賞者の選考にあたり、私どもは、候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の諸業績に対して、「顕彰」、「奨励」、「特別」に値するとの結論に達しました。それぞれのご業績の特色や褒賞に値する観点は下記の通りです。

< 顕 彰 >

受賞者：富田 裕子 氏（成城大学 兼任講師）

研究テーマ：平塚らいてう研究に関する邦文・英文による学会発表 並び 論文出版

受賞理由：

平塚らいてう賞が創設されてから、本年は第 6 回目になるが、顕彰部門で初めて徹頭徹尾平塚らいてう研究に取り組んだ応募があり、たいへん喜ばしい。しかも受賞の主たる対象は、イギリスのシェフィールド大学歴史学部提出された博士論文で、約 470 ページにわたる英文の力作である。題名は *Hiratsuka Raicho and Early Japanese Feminism* (『平塚らいてうと日本の初期フェミニズム』2001)、3 年後 Brill 社から出版された。著者富田裕子氏のらいてう研究の動機は、海外特に英語圏におけるらいてう研究は 1990 年当時皆無に等しい状況だったことに「不満を覚えた」ため、と述べられているとおり、らいてうのフェミニズム思想とその実践を英米人に紹介したいと思ったからだという。

この目的を果たすために、富田氏はミクロとマクロの両面かららいてうの実像に迫り、時代に先んじてみずからの信念に忠実に生き、書いたらいてうの姿を最終的に浮き彫りにするべく情熱を傾けている。まず江戸期と明治期の日本の女性の地位から説き起こし、らいてうの急進的フェミニズムの形成、塩原事件、「青鞥」と新しい女、結婚と女性保護論争、新婦人協会など、らいてうの生涯にそって詳細に書く一方、らいてうとほぼ同時代を生きた日本あるいはヨーロッパの女性思想家や運動家たちと比較するとらいてうにはどんな特徴があるかなど、綿密に資料で裏付けながら説得力のある論を展開している。

その他、国内外での講演や学会発表も多く、日本のらいてう研究を海外で紹介したり、エジンバラでらいてうの映画会を主催するなど、世界にらいてうの名を広める上で大きく貢献している。まさにらいてう賞にふさわしい方といえよう。

< 奨 励 >

受 賞 者：南 コニー 氏（神戸大学大学院 文化科学研究科 文化構造専攻 博士課程後期）

研究テーマ：法と社会参加の間における女性の権利を見直す研究 及び エジプトにおける FGM 廃止運動

受賞理由：

本年度の奨励部門受賞者の南コニー氏は、女性の権利をめぐる法と社会参加の関連についての理論的研究を進める一方で、エジプトのアブガレブ村における FGM (Female Genital Mutilation, 女性性器切除)廃止会議に出席し、「女性の身体を意図的に傷つける伝統が生み出す暴力の連鎖」という題で発表するなど、国内外で活発に活動している。その立ち位置は、グローバル（グローバル+ローカル）な視点でジェンダー・ギャップ（日本は 134 カ国 101 位）をとらえ、公と民の結びつきにより乗り越えていこうというものである。「法の制定」のみでは、女性の人権回復は難しいという現実を見据え、国内のみならず、国際的な意見交換が必要であるという若々しい意気込みに期待したい。

< 特 別 >

受 賞 者：東京国際女性映画祭（代表：高野 悦子 氏）

活動テーマ：世界の女性監督作品を紹介し、日本に女性監督を輩出する

受賞理由：

東京国際女性映画祭は、「国連婦人の十年」の最終年にあたる 1985 年にスタートし、以後、25 年を経過している。当初は女性の映画監督が世界的にも少なく、まして日本では殆どいなかった。ジャンヌ・モローは「従来の男性文化に女性の視点を加えることで真の人間文化をつくることができる」といい、以後、女性監督の特色がにじみ出た、すぐれた映画の上映が重ねられた。

『東京国際女性映画祭 20 回の記録』によれば、それまで 42 カ国、225 本の映画、180 余名の女性監督が紹介されている。2010 年 11 月の第 23 回の映画祭には、スペイン、アルゼンチン、ボスニア・ヘルツェゴビナ、アメリカ、ポーランド、韓国、台湾、日本の 8 カ国、11 本が上映され好評を博した。

東京国際映画祭は他国の国際女性映画祭との交流もあり、今後とも大きな国際的活動として女性の文化の輪を国内外に広げることが期待できる。

なお、「平塚らいてう賞」の原資となった羽田澄子監督の「元始女性は太陽であった 平塚らいてうの生涯」は最初に本映画祭で上映されている。

以上